

学校だより

あたたかい子  
かしこい子  
たくましい子

つよし

—第11号—

令和元年6月17日  
平戸市立津吉小学校  
文責 校長 田川定司

## 津吉っ子の心を見つめる教育週間

6月17日（月）から23日（日）の期間、津吉小学校では、「津吉っ子の心を見つめる教育週間」と設定し、保護者・地域の皆様に学校を公開して、津吉の子供たちを共に健やかに育てていくよう取組を進めています。また、この教育週間は「いのち」の大切さを考える機会でもあります。

それを踏まえ、教育週間のスタートにあたり、子供たちに下記のような校長講話を行いました。

今日は「命」についてお話したいと思います。皆さんは、童謡の作詞者で「野口雨情」という人の名前を聞いたことがありますか。名前は知らなくても、「七つの子」や「赤い靴」「青い目の人形」など今でも歌い継がれているたくさんの童謡を作った人です。野口雨情が作った曲の中で、特に有名な曲の一つに「シャボン玉」があります。『シャボン玉飛んだ 屋根まで飛んだ 屋根まで飛んでこわれて消えた』という歌です。皆さんも知っていますよね。

この詩は実は「命の歌」とも言われています。なぜかという、野口雨情は子供がほしくてほしくてたまりませんでした。その願いがやっと通じ、27歳の時に、かわいい女の赤ちゃんを授かりました。どんなに嬉しかったことでしょう。でも、その赤ちゃんは、生まれて8日目に亡くなってしまいました。その時の悲しみを詩にしたのが、この「シャボン玉」の歌だと言われています。『シャボン玉消えた 飛ばずに消えた 生まれてすぐに こわれて消えた』せっかく生まれてきた命、ずっとずっといつまでもいてほしかったというお父さんの悲しさが込められた歌です。

皆さんは、命をもっていますよね。皆さんの命はどこにありますか。命は、目に見えないもの、手で触れることもできないもの。だけど、皆さんは、その命をもっています。空気がなければ、人間も動物も生きていくことはできません。その大切な空気を、私たちは見ることはできませんね。本当に大切なものは目に見えないことが多いのです。

目には見えないけれど、大切な命。この命は、皆さんのお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、そのまたおじいちゃん、おばあちゃんからいただいたものです。ですから、皆さんの命はとっても大事な、大切なものなのです。

それでは、「命を大切にすることは、どうすることでしょうか？」命を大切にすることは、与えられた「命という時間を大切にすること」だと思います。

人は、生まれてからこの世を去るまで時間がありますが、この時間を何の目的もなく無駄に過ごしたのでは、命という時間を大切に過ごしたとは言えません。例えば、勉強を頑張るとか、スポーツを頑張るとか、友達や家族と楽しく過ごすなど、充実するような過ごし方をしないとけません。命という時間を上手に使わないと、命を大切にしているとは言えません。

「命という時間を大切にすること」のために、是非4つのことを実行してほしいと思います。

- ① 命という時間を上手に使う
- ② (命という時間を失わないために) 安全に気をつけた行動をする
- ③ (命という時間を幸せに過ごすために) 自分以外の人も大切にすること
- ④ 命という時間が(代々)繋がっていることに感謝すること

最後に、皆さん一人一人は、かけがえのない大切な人です。ご両親は勿論、先生方も皆、皆さんが大好きです。皆で、命という時間を大切にすること津吉小学校にしてほしいと心から願っています。